

平成 19 年 4 月 2 日

## 平成 19 年度学校評価について

京都市立山王小学校

### 1. 学校評価とは

本校の教育目標「よりよい生き方を実現しようとする子の育成」を達成するために、どのように教育課程を編成し、それをどのように実施しているか、また、その成果は児童の学力に、あるいは行動面にどう現れたかを評価するものである。

目指す子ども像は以下の 3 点を挙げている。

- ( 1 ) 自分の健康に気をつける子
- ( 2 ) 自分の夢をもち、夢に向かってがんばる子
- ( 3 ) 素直に聞き、自分の言葉で話せる子

これらを実現するために、一人一人のよさが生かされる学級経営・人権教育を基盤にした学校経営をベースに、秩序感覚の育成、基礎基本の定着、問題解決能力の向上、自覚的実行力の育成を図ることにより、自己教育力の向上が図られていき、その結果として本校の教育目標が達成される。

### 2. 学校評価の方式について

学校評価は、自己評価と外部評価に分けることができる。

自己評価は、教職員自身の手で行われる「自律」のための機能である。教職員自身による評価であることから、学校教育の実践に生かされやすいという利点がある。

外部評価は、保護者・地域の方々・学校評議員等、学校部外者における評価で「他律」を機能としている。そのため評価に厳しさや客観性があるが、十分な学校情報がないと、評価結果は上滑りなものになってしまう。

従って、学校評価活動は自己評価、外部評価を共に行うことが必要となる。

### 3. 学校評価システムについて

学校評価は支援組織表の中に位置付けている。その構成員は、校長、教頭、副教頭、人権教育主任、研究主任とする。

学校評価は、年間計画に基づいて行う。

自己評価票および外部評価票をもって実施する。これとは別に、随時、学校評議員より意見を聴取する。